

－H26年度 西日本弁理士クラブ 若手会主催－

第2回W－1 麻雀選手権 開催報告 （報告：矢野）



2014年11月15日（土）に第2回W－1 麻雀選手権を開催いたしました。昨年同様、予定人員の12名（新規入会会員1名含む）にご参加いただきました。

ここで、麻雀にご縁のない方には一部分かりづらいかもしれませんが、本大会の開催形式について説明致します。

本大会では、予選及び決勝・順位決定戦が行われます。予選は三回の東風戦（親が一度回れば終わり）、決勝・順位決定戦は二回の東南戦（親が二度回れば終わり）で行われます。どちらも時間制限が設けられ（予選は35分・決勝・順位決定は60分）、半荘が途中の場合でも、制限時間を超える直前に終了した局でその半荘は打ち切りとなります。

予選では一半荘が終わるごとに席替えを行うことでできるだけ幅広い面子と対戦して頂きました。東風戦は、スピード重視の軽い手役でアガるのが一つの戦略なのですが、今回の参加者からは、満貫、跳満の威勢のいい声がどんどん聞こえてきました。皆さん引きが強い！

決勝・順位決定では同じ面子で二半荘を打ちます。オカやウマも入ったトータルの点数で競うので勢いももちろん大事ですが、戦略が重要となってきます。この戦略の重要性が決勝卓では如実に表れました。一回戦でリーチドラ7を上げられた方がまず独走でトップをとり、このままの勢いで二回戦も取るかと思われたのですが、二回戦では、一回戦二着だった方が、一着を取り、ウマなどを加えた合計点数で逆転されました。しかも、二回戦の最終局では、不聴罰符を取るために、アガリ（ツモ）を放棄するというテクニカルな打ち方をしたの逆転ですから、ギャラリーから「シブい」「上手い」と唸る声があがりました。ドラマチックな熱戦を制し優勝した辻本 孝臣先生には約束通り今後一年間「西日本で一番麻雀の打てる弁理士」を名乗っていただきたいと思っております。

参加された方からはリベンジの機会を望む声も聞かれました。次回以降の開催は未定ですが是非とも前向きに検討したいと考えております。

最後に、今回の大会にご参加、ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

